

平成 28 (2016) 年度 相愛中学校・高等学校「学校評価」

1. めざす学校像

相愛学園では、創立 125 周年を機に、「建学の精神」に立ち戻り、改めて学園教育理念を定め、また教育方針を確認。学園教育理念「當相敬愛」を単にスローガンで終わらせず、本校のすべての教育活動の基軸に据え、「自己肯定感」・「関係性の力」をキーワードに、「當相敬愛」を軸にして進化した独自の人間形成教育に努める。教育活動として、現代の時代状況に応じる「新しい学び」として、「学習力」強化・「人間力・こころの教育強化」の推進・「国際教育」の充実を 3 本柱とする。

2. 中期的目標

1. 学習力強化

- ・自習室の充実により、生徒がより積極的に学習できる環境を整える。
- ・朝テスト、各種検定、スコラ手帳、自習室の活用等、現在実施している教育活動を継続し教育レベルの向上をめざす。

2. 人間力・こころの教育強化の推進

- ・自らの「意見形成」を行い、発言・行動できる力を身に付ける。
- ・「宗教行事」・「クラブ活動」を通じ、互いに影響を与え合い、高め合う人間関係形成力を培う。
- ・29 年度よりこころの教育をより発展的に展開するため「宗教改革プラン」を策定し実行していく。

3. 国際教育の充実

- ・生徒の英語コミュニケーション力の向上と国際社会への理解を深める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2016 年 12 月実施]	学校評価委員会からの意見
○生徒 一昨年、昨年に引き続き、学校行事関連の項目で全体的に高い満足度が示されている。「1 宗教的行事」については常に最も高い評価となり、次いで「25 家庭での学校の話が多いこと」「20 安全管理の充実」の評価も高く、女子校にとっては高評価となる項目の満足度が高くなっている。又、昨年と比べ若干ではあるが全体的に満足度が上がっている。 ○保護者 こちらも昨年同様、ほとんどの質問で生徒と同様の結果となったが、全体的に生徒より高い評価となっている項目が多い。保護者は基本的に生徒から得る情報によって学校評価を行っていると思われるが、先に挙げた「20 家庭での学校の話が多いこと」の高評価がこの結果に現れている。但し、一部学習面においては生徒より保護者評価が低いこれは一般的な傾向と思われる。 ○教員 学習指導の項目で生徒・保護者の評価と開きがあり教員評価が高いのに対し、生徒・保護者評価はあまり高くないままで、昨	2015 年度満足度に比べ 2016 年度満足度は下位の評価が上がり改善しているように見えるが、全体を通して依然学習面が弱点となっている。 評価の高い「宗教的行事」や「学校行事」の効果として、生徒の変化・成長について、目に見えてすぐわかるわけではないが、卒業する頃、又社会に出てから成長を感じていることが多いのではないかと。「人間性を育てる」教育がなされていること、安心して充実した学校生活が送れていることに満足している。そのことを、進学相談会などでもっと積極的に受験生へアピールした方がよい。 評価の低い学習面については学力差の問題もあり大変だとは思いますが、習熟度別など対応策も考えられる。しかし保護者全員が学力重視を望んでいるわけではなく、今までの相愛の良さ「相愛カラー」を望んで入学させている保護者も多いので、学力向上と共に「相愛らしさ」の教育を維持して欲しい。 又、「教員相談」「問題対応」の項目で生徒評価が低くなっている点について、質問のしやすさ、先生側の聞く姿勢、配慮が必要。言いにくい雰囲気を作ることなく、言葉に出来ない悩みを

年からも改善はされていない。但し、授業アンケートの実施、教員へのフィードバック、授業改善案の提出などを行い学習面での意識の開きを少しでも埋めるように、対策をとっている。昨年開きのあった「大学進学対応」の項目については本年度満足度が上がったわけではないが、生徒・保護者と教員間の開きはほとんどなくなった。

今後もすべてにおいて高い評価が得られるよう、教職員一同努めたい。

汲んであげられるような態度・気持ちを持って生徒に接して欲しい。

今後、相愛の良さをアピールする意味でも「相愛を選択した理由、決め手、誰が決めたのか」などアンケートをとって見たらどうかとの意見も出た。

3. 本年度の取組み内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習力強化	(1)学力の向上 ア 教育改革の推進 (将来構想委員会)	ア 学校教育改革プロジェクトチームを中心に各種プロジェクトを推進し、文部科学省の提唱する教育改革に対応するカリキュラム等を検討する。	ア 具体的目標の提示	ア 高校は大学入学共通テストを見据えたカリキュラムや指導内容を模索する。 通学は新学習指導要領に対応するため「各教科指導」内容を検証し、「総合的な学習の時間」の再構築も含めてカリキュラムの検討を継続して行う。
	イ 高校「普通科専攻選択コース」の検証 (将来構想委員会)	イ 高校「普通科進学コース」を「普通科専攻選択コース」に変更し完成年度を迎え内容の再検証を行う	イ 生徒・保護者の満足度向上・新入生増	イ 専攻選択コースは平成 28 年度に完成年度を迎えた。この 3 年間で各コースにおける履修モデルの再検討を行い、カリキュラム変更も含めよりわかりやすく学べるよう修正し、安定した生徒確保へつなげる。平成 29 年度から別表 1（カリキュラム表）の学則改定を行った。
	ウ 全学年への朝テスト、漢字検定・英語検定等、資格取得の継続実施	ウ 朝テストを実施。漢字検定・英語検定受験の徹底	ウ 生徒・保護者の満足度向上	ウ 1 限目開始前に朝テストを実施、基礎学力の定着をはかる。 漢字検定・英語検定全員受験の機会を設け、併せて試験合格に向けてのより具体的な取り組みを行う。受験については全員受験を徹底し、昨年より合格率の上昇と上級合格者数が増加している。
	エ 学習環境の整備	エ 教員室前の自習室の充実	エ 状況にあわせ取り組む	エ 教員室前の質問コーナー、自習室内個別ブースの増設等をし、教員に近い場所での自習環境を整えることにより、生徒各自の学習の効率化や向上をめざし、始業前・放課後にも今まで以上に集中して学習できる環境を整えた。今後もハード・ソフト面共にサポート体制を強化していく。 前年度に比べ、自習室の利用率アップにつながっている。

2 人間力・こころの教育強化推進	(1)進路指導 ア 進路指導とキャリア教育の充実	ア 進路指導部・キャリア教育推進部を統合し、各学年の連携のもと、全学年での系統的なキャリア教育・進路指導を推進。	ア 生徒・保護者の満足度向上と合格実績向上	ア 進路指導部・キャリア教育推進部を統合し、進路指導部長の下、入学から卒業までの一貫したキャリア・進路指導により、目的意識・目標が持てるように指導を行っていく。自分の将来像が見えるキャリア教育を進学につなげるため組織改革を行った。
	(2)行事の充実 ア 各種行事の充実	ア 現状の行事を維持しつつ、新たな行事の計画や現行行事の見直し充実を図る。	ア 生徒・保護者の満足度向上	ア 高校修学旅行については世界情勢を勘案し、平成 29 年度入学生より海外から国内へ変更する。 体育祭については府立体育館での実施は天荒に左右されない利点はあるが、時期により熱中症対策（水分補給の徹底、空調）が必要である。
	(3)問題を抱える生徒への対応 ア スクールカウンセラーの充実	ア スクールカウンセラー来校日の増加。生徒に対応する手法の多様化	ア 生徒・保護者の満足度向上と生徒のアイデンティティの確立	ア 近年様々な不安を抱えたり、障害を持つ生徒の入学が増加している。一方それらの生徒に対するケア体制は万全とはいえないのが実情である。生徒・保護者の不安を少しでも取り除く一助となるべく教員はもちろん専門のカウンセラーが対応出来る時間を出来るだけ確保する。又、複数のカウンセラーを配置することにより多様な生徒への対応とそれぞれのカウンセラーが連携しながら生徒対応に当たる。それらの生徒が安心かつ満足して学校へ通学出来る環境を整える。

	(3)宗教教育 ア 宗教教育プランの策定	ア 各種宗教行事の参加（学外行事含む）や充実した心の教育	ア 生徒・保護者の満足度向上	ア 従来から本校が行ってきた宗教教育に関しては生徒・保護者のみならず近隣企業や同じ本願寺派関係学校からも高く評価されている。今後は新たなステップとして、地域住民や広く宗教と関わられるような教育活動を行い、あらためて建学の精神の具現化に努める。
3 国際教育の充実	国際交流プログラム ① 国際交流プログラム	① ハワイ Pacific Buddhist Academy（以下、「PBA」）での語学研修プログラム実施 （中3～高3対象） イギリス「バンガー大学」への研修プログラム	① 参加者の満足度並びに、交流校の評価向上	本校と建学の精神を共にする、PBAでの語学研修を夏期・冬期に実施。ホームステイやPBAの生徒との交流・異文化体験を通し国際感覚を磨く機会を設けた。加えてそれを更に発展させたものとして、1ヵ月間PBAの通常授業で学習する研修を実施。又、27年度よりイギリス「バンガー大学」とも教育連携を結びホームステイやフィールドトリップを通して英国の歴史や文化を学ぶ。参加生徒達は英語の習得に関心があり、教員も理解が深まっている。平成28年度は「PBA」での夏期6週間の研修、「バンガー大学」での研修を実施した。